

自己評価書イメージ

基準1「高等専門学校の目的」、基準2「教育組織（実施体制）」、
基準3「教員及び教育支援者等」、基準4「学生の受入」、
基準5「教育内容及び方法」、基準6「教育の成果」、
基準9「教育の質の向上及び改善のためのシステム」の一部

本書及び添付されている資料等は、実在する高等専門学校と
一切関係なく作成しております。

「自己評価担当者等に対する研修会」

- 高等専門学校機関別認証評価においては、対象高等専門学校が行う自己評価が重要な位置を占めています。
- 各高等専門学校は、自己評価実施要項に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成します。自己評価は、基準ごとに、その内容を踏まえ基本的な観点に従って、高等専門学校の教育活動等の状況を分析し、記述します。各高等専門学校には、原則としてすべての基本的な観点到係る状況を分析、記述することが求められます。また、基準ごとに観点的分析の中から目的を踏まえて、優れた点や改善を要する点を抽出し、記述します。
- 本書（イメージ）は各高等専門学校が自己評価書を作成するにあたり、その作業が円滑に進むよう、記述・内容のイメージを掴んでいただくために、作成したものです。本書（イメージ）は、11の基準及び2つの選択的評価事項のうち、特に基準1「高等専門学校の目的」、基準2「教育組織（実施体制）」、基準3「教員及び教育支援者等」、基準4「学生の受入」、基準5「教育内容及び方法」、基準6「教育の成果」及び基準9「教育の質の向上及び改善のためのシステム」の一部を例として取り上げ、高等専門学校の教育活動等の状況について、自己評価実施要項の「第2章 自己評価の方法等」（P 3～6）及び「第3章 自己評価書等の作成及び提出方法」（P 7～17）に従って、記述しています。
- 本書（イメージ）は、高等専門学校で取り組んでいると思われる様々な活動等の内容を基に、あくまでもイメージとして作成したものです。
- 各高等専門学校においては、本書（イメージ）の記述内容はあくまで参考に留め、各高等専門学校の目的等に照らして、現状の教育活動等の状況について、自己評価を実施してください。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では創設時に学校の使命を定め、学則に掲げている(資料1-1-①-1)。時代の変遷により社会ニーズの変化はあるものの、本校が社会に対して担う基本的な役割は不変であると考え、この使命は現在に至るまで貫いている。また、平成×年には教育理念等を見直し、学校として、課程及び学科・専攻科ごとの養成すべき人材像や卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力を定め国際化に対応することなど、教育目標のより一層の個性化、明確化を図っている(資料1-1-①-2, 3)。

資料 1-1-①-1

小平工業高等専門学校学則 (抜粋)

第1章 本校の使命

第1条 本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

(出典 小平工業高等専門学校学則 P. 〇)

資料 1-1-①-2

「教育理念等見直しの際の会議資料」

(出典 平成×年×月×日 〇〇会議資料)

資料 1-1-①-3

教育理念等

教 育 理 念

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

教 育 目 標

- 1 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

養成すべき人材像

準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、

技術革新を担うことができる，ものづくりの基盤技術を支える，創造性豊かな，企業から信頼される指導的な実践的技術者

機械工学科

- ・
- ・

専攻科課程

進取の気風に富み，幅広い豊かな教養と，質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて，常に探求心を持ち，技術革新を促進することができる，ものづくりの技術発展を支える，創造性豊かな，国際社会で活躍できる開発型技術者

機械工学専攻

- ・
- ・

卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程

- 1 心身ともに健全であり，社会性及び倫理観を身に付ける。
- 2 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。
- 3 国際性を身に付け，英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。
- 4 実践的技術者として，工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。

- ・
- ・

専攻科課程

- A 技術者が担う社会的責任，科学技術における倫理的責任を理解するとともに，問題点を見出し，解決する能力を身に付ける。
- B 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに，実践に応用できる能力を身に付ける。
- C 豊かな国際感覚を持ち，英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。
- D 開発型技術者として，工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性，意欲を身に付ける。

- ・
- ・

(出典 小平工業高等専門学校概要 P. ○，小平工業高等専門学校学則 P. ○)

本校の使命（資料 1-1-①-1），教育理念等（資料 1-1-①-3）は，高等専門学校創設の趣旨である「実践的技術者を養成する高等教育機関」としての責務及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。すなわち，学校教育法第 115 条には，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」ことを目的とするとあるが，本校の養成すべき人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は，これらとの関連を明確にして策定しており，学科ごとの養成すべき人材像もこれに準じて策定している。学校教育法第 115 条の目的と本校の目的の対応関係は次のとおりである（資料 1-1-①-4）。

資料 1 - 1 - ① - 4

「深く専門の学芸を教授」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
準学士課程の養成すべき人材像のうち、 専門の工業技術の知識を身に付けて・・・	準学士課程の養成すべき人材像のうち、 企業から信頼される指導的な実践的技術者・・・
専攻科課程の養成すべき人材像のうち、 ・・・・・・・・・・。	専攻科課程の養成すべき人材像のうち、 ・・・・・・・・・・。
準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、 ・・・・・・・・	準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、 ・・・・・・・・
専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、 ・・・・・・・・	専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、 ・・・・・・・・

(出典 平成×年×月 ○○会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学校が社会に対して担う基本的な役割として、高等専門学校の使命を定めている。また、学校としての教育理念や教育目標、課程、及び学科、専攻科ごとの養成すべき人材像を定めているほか、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力、ならびに、達成しようとしている基本的な成果等を明確に定め、個性化にも配慮している。

本校の使命、教育理念等は、高等専門学校創設の趣旨及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定している。また、養成すべき人材像や卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校教育法上の高等専門学校の目的との対応を明確にしたうえで策定しており、学科、専攻科ごとの養成すべき人材像もこれに準じて策定している。

以上のことから、本校は、高等専門学校としての目的、学科、専攻科ごとの目的を個性や特色に応じて明確に定め、その目的は学校教育法の定める目的から外れるものではない。

観点 1 - 2 - ①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点到に係る状況)

本校の使命、教育理念、教育目標、養成すべき人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校概要（資料 1 - 2 - ① - 1）、ウェブサイト（資料 1 - 2 - ① - 2）に掲載しているほか、使命等については学生便覧（資料 1 - 2 - ① - 3）にも掲載している。

資料 1 - 2 - ① - 1

1. 本校の使命

本校の使命は、次に掲げるとおりです。

本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

2. 本校の教育理念

本校の教育理念は、次に掲げるとおりです。

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

3. 本校の教育目標

本校の教育目標は、次に掲げるとおりです。

- 1 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に答え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

4. 養成すべき人材像

本校では、次のような人材を養成します。

準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

機械工学科

専攻科課程

進取の気風に富み、幅広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に探求心を持ち、技術革新を促進することができる、ものづくりの技術発展を支える、創造性豊かな、国際社会で活躍できる開発型技術者

機械工学専攻

5. 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

本校では、先に挙げた養成すべき人材像のほかに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力をより具体的に定め、学習する際の指針としています。

準学士課程

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。
- 2 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。

・

専攻科課程

- A 技術者が担う社会的責任，科学技術における倫理的責任を理解するとともに，問題点を見出し，解決する能力を身に付ける。
- B 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに，実践に活用できる能力を身に付ける。

(出典 学校概要 P. 〇)

小平工業高等専門学校

● 本校の使命

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

● 本校の教育理念

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

● 本校の教育目標

- 1 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に答え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

● 養成すべき人材像

本校では、次のような人材を養成します。

○ 準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

機械工学科

○ 専攻科課程

進取の気風に富み、幅広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に探求心を持ち、技術革新を促進することができる、ものづくりの技術発展を支える、創造性豊かな、国際社会で活躍できる開発型技術者

機械工学専攻

● 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

本校では、先に挙げた養成すべき人材像のほかに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力をより具体的に定め、学習する際の指針としています。

○ 準学士課程

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。
- 2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。

・

○ 専攻科課程

- A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。
- B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に活用できる能力を身に付ける。

・

(出典 本校ウェブサイト)

資料 1 - 2 - ① - 3

諸規則等**・学則**

第 1 条 本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

(出典 学生便覧 P. 〇)

教職員採用時の初任者研修では、本校の使命、教育理念、教育目標、養成すべき人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力（以下「使命等」）についても重点的に説明し、目的の周知を図っている（資料 1 - 2 - ① - 4）。

資料 1 - 2 - ① - 4

本校では次のことを十分に理解した上で教育研究活動を実施することが求められます。

○本校の使命

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

○本校の教育理念

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

○本校の教育目標

1. 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の養成に支え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

○養成すべき人材像**準学士課程**

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

機械工学科

.

専攻科課程

.

機械工学専攻

.

.

○卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力**準学士課程**

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。

.

.

(出典 平成 X 年度初任者研修資料)

また、教職員及び学生に学校概要、学生便覧等を配付し、目的の周知を図っている。

更に、学生には学習達成度評価記録簿（資料1-2-①-5）により学年ごとに達成目標の到達状況を振り返る自己評価を行わせ、教員にはその点検・評価ならびに学生へのアドバイスを実施することを求めている。これらのことによっても、**学校の構成員が絶えず教育の目的を振り返る機会**を設けている。

資料 1 - 2 - ① - 5

学習等達成度記録簿

機械工学科
氏名 _____

○学習達成度の自己点検

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	5【達成した】→・・・→1【未達成である】				
	1年	2年	3年	4年	5年
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。					
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。					
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。					
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。					
・ ・ ・					

（出典 平成×年×月×日 「学習達成度記録簿」 抜粋）

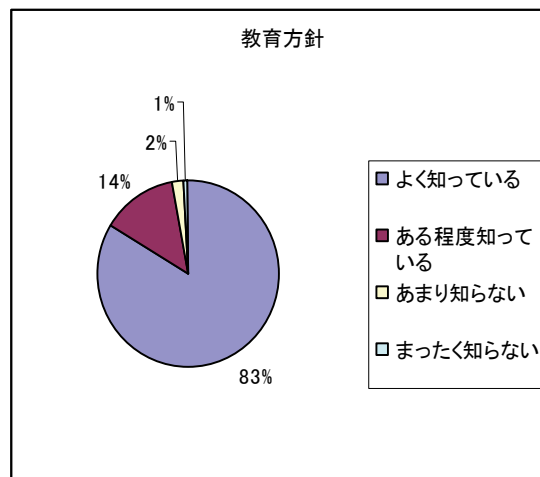
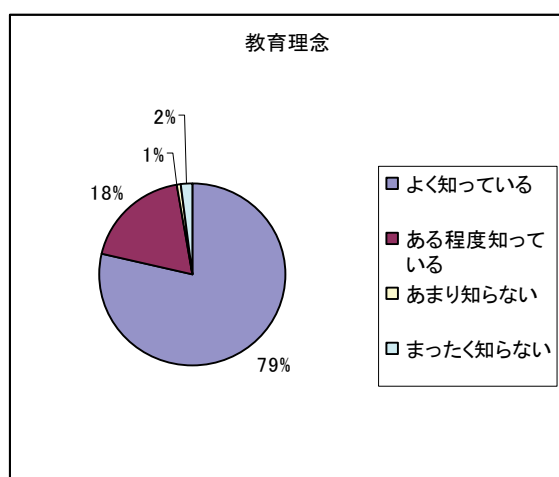
平成×年×月には、教職員（非常勤講師を含む）、準学士課程及び専攻科課程の学生に対して、目的の周知状況についてアンケート調査（資料1-2-①-6～8）を実施したところ、教職員の約9割、また、準学士課程と専攻科課程の学生の約7割が「知っている」と回答していることから、おおむね周知されている。

資料 1 - 2 - ① - 6

教職員（非常勤講師を含む）に対するアンケート結果

1. 本校の教育理念を知っていますか。
- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない
2. 本校の教育目標を知っていますか。
- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない
3. 本校の準学士課程及び専攻科課程の養成すべき人材像を知っていますか。
- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない
4.
- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない

	教育理念	教育目標	養成すべき人材像
よく知っている	81	86	85
ある程度知っている	19	14	10
あまり知らない	1	2	5
まったく知らない	2	1	3



(出典 平成×年×月×日 ○○会議資料)

小平工業高等専門学校

●本校の使命

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを使命とする。

●本校の教育理念

優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成

●本校の教育目標

- 1 豊かな教養と感性を育て、人間性豊かなエンジニアとして活躍するための教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

●養成すべき人材像

本校では、次のような人材を養成します。

○準学士課程

進取の気風に富み、豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けて、常に新たな発想の下に、技術革新を担うことができる、ものづくりの基盤技術を支える、創造性豊かな、企業から信頼される指導的な実践的技術者

○専攻科課程

進取の気風に富み、幅広い豊かな教養と、質の高い専門の工業技術の知識を身に付けて、常に探求心を持ち、技術革新を促進することができる、ものづくりの技術発展を支える、創造性豊かな、国際社会で活躍できる開発型技術者

●卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

本校では、先に挙げた養成する人材像のほかに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力をより具体的に定め、学習する際の指針としています。

○準学士課程

- 1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。
- 2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。

・

○専攻科課程

- A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。
- B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に活用できる能力を身に付ける。

(出典 本校ウェブサイト)

資料 1-2-②-2	<p>「入学案内」や「学校案内」に記載している本学の使命 (出典 「平成×年度入学(学校)案内」P. ○)</p> <p>「入学案内」や「学校案内」に記載している課程ごとの養成すべき人材像及び卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力の掲載箇所 (出典 「平成×年度入学(学校)案内」P. △)</p>
資料 1-2-②-3	<p>オープンキャンパスの参加人数, (「入学案内」等を基に目的を説明していることが確認できる) プログラム等 (出典 オープンキャンパスプログラム, 学生課資料)</p>
資料 1-2-②-4	<p>中学校訪問の対象校, 「入学案内」配布部数等 (出典 学生課資料)</p>
資料 1-2-②-5	<p>「入学案内」, 「学校案内」配布先一覧等 就職先である関連企業先, 進学先等に対する「入学案内」, 「学校案内」の配布部数 (出典 学生課資料)</p>

(分析結果とその根拠理由)

ウェブサイトに本校の使命等を掲載しているほか, 「入学案内」等には, 本校の使命, 養成すべき人材像, 卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力を記載しており, オープンキャンパスや中学校訪問時に積極的に説明している。また, 就職先企業や進学先の大学などには, 「入学案内」や「学校案内」を配布している。

以上のことから, 本校の目的は, 社会に対して広く公表している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

該当なし

【改善を要する点】

- ・ 学生が学習するにあたって, 「養成すべき人材像」及び「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」をよく理解しておくことは大変重要であるが, 現状では必ずしも十分に周知ができていたとは言えず, 改善の余地がある。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、創設時に学校の使命を定め、それを現在に至るまで貫いている。また、課程、及び学科ごとの養成すべき人材像や卒業（修了）時に身に付けるべき学力及び資質・能力をより具体的に定めることにより、学生が本校において学習する際の具体的な指針を示している。

本校の使命は、高等専門学校創設の趣旨及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて定められたものであり、養成すべき人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校教育法上の高等専門学校の目的との関連を明確にして策定されていることから、本校の目的は、学校教育法の規定からはずれるものではない。

教職員に対しては、本校の使命、養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力のすべてについて、学生に対しては、養成すべき人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について、それぞれ積極的に周知を図っており、周知状況を調査するアンケート結果からも、学校として、目的が学校の構成員に周知されていることを把握している。

また、本校の目的は、ウェブサイトや刊行物に掲載しているのをはじめ、オープンキャンパスや県内を中心とする中学校への訪問時の説明及び就職先の関連企業や進学先等に「入学案内」、「学校案内」等の刊行物を配布するなど、社会に対して広く公表している。

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程は、中学校卒業生を対象に5ヵ年一貫教育を実施することにより、実社会で役立つ実践的・創造的技術者を育成することを目的とし、科学技術の進展にも対応しつつ、工業の分野を幅広くカバーする基本的な、機械工学科、電気工学科、物質工学科、建築学科の4学科で構成している（資料2-1-①-1, 2）。

近年、本校では教育理念及び本校の養成すべき人材像を時代の要請に基づいて見直すとともに（資料1-1-①-3（1ページに前出））、科学技術の動向を踏まえて学科構成を見直し、その妥当性を確認し、学科ごとに教育目標を定めている（資料2-1-①-3）。

資料2-1-①-1

（出典 平成×年度学生便覧P. ○）

学科構成

第7条 学科、学級数及び入学定員は次のとおりとする。

	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気工学科	1	40人
物質工学科	1	40人
建築学科	1	40人

資料2-1-①-2

各学科の概要

【機械工学科】機械工学科では、人々の生活に根ざした社会に役立つものづくりの基礎を学ぶためのカリキュラムを基に、広範囲な基礎的知識を学ぶとともに、実験・実習を多く取り入れ、実践力を身に付ける。また、卒業研究では、テーマの設定からすべて学生自身が行い、創造性を伸ばすとともにあらゆる視点から考える力を修得させ、社会に輩出する。

【電気工学科】電気工学科では、技術の発展がめざましく、また社会ニーズが高いことを鑑み、電子工学、制御工学、情報工学、電力工学、生命環境工学などの基礎知識を学ぶとともに、最新の技術を取り入れた研究能力を養い、実践的な技術者として即戦力のある人材を輩出する。

【物質工学科】・・・・・・・・・・

【建築学科】・・・・・・・・・・

（出典 平成×年度学校概要 P. ○）

資料 2-1-①-3

各学科の教育目標

【機械工学科】機械工学の基礎知識，基礎技術を修得し，更に，設計から製作までの総合的な能力を身に付けている。また，コンピュータ支援による種々の工学的手法を駆使し，かつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる能力を身に付ける。

【電気工学科】電気工学の主たる分野であるエネルギー，電子，制御，通信，情報の基礎知識と基礎技術を修得し，実践的技術者としての素養と能力を身に付ける。

【物質工学科】高度化する化学技術に対応できる基礎学力と豊かな創造力を有する。また，地球環境に配慮しながら資源を有効に活用し，新素材や医薬品等を製造開発できる実践的技術を身に付ける。

【建築学科】建築の設計から施工までの建築全般にわたる幅広い知識を身につけており，建築物の安全性や環境形成への影響などに対する社会的責任感も有している。更に，建築設計におけるコンピュータの実務利用等，高度化するソフトウェア環境に適應できる実践能力と，規格化されていない問題も解決できる能力とを身に付ける。

(出典 平成×年度学校要覧 P. ○)

(分析結果とその根拠理由)

本校の学科は，教育理念及び養成すべき人材像を具体化した，各学科の教育目標を基に時代の要請にも適合した 4 学科で構成している。各学科においては，学校の目的に適合する各学科の教育目標に沿った教育を実施しており，学科の構成は，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

省略

観点 2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

教育の目的を達成するための全学的なセンターとして情報処理センター，地域共同テクノセンターを設置している。

1) 情報処理センター

情報処理センターは，低学年のコンピュータリテラシーについての情報処理基礎教育，専門学科の情報処理応用教育あるいは専攻科課程の教育・研究を行うための全学科共通施設であるとともに，校内の LAN 環境を管理する重要な役割を担っている（資料 2-1-③-1， 2）。

また，学生全員に ID 及びパスワードを付与しており，学生は学内のどのパーソナルコンピュータからでもインターネットを通して各種の情報を得ることができ，また，就職活動や進学先の情報収集にも利用している。

資料2-1-③-1

○小平工業高等専門学校情報処理センター規程

昭和49年4月1日制定

第1条 小平工業高等専門学校情報処理センター(以下「情報処理センター」という)は本校における計算機システム利用の推進を図ることを目的として設置する。

第2条 情報処理センターは、次の業務を行う。

- (1) 情報処理教育に関する教育、研究、開発及び普及
- (2) 計算機システムの維持管理及び運用
- (3) LANの管理及び運用に関すること。
- (4) その他情報処理センターに関する業務

第3条 情報処理センターに次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 主任 若干人
- (3) アドバイザー 各学科、一般教育科の教員及び事務部各課のうちから互選された者各1人
- (4) センター員 若干人

2 職員の職務は、次のとおりとする。

- (1) センター長は、情報処理センターの業務を統括する。
 - (2) 主任は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときはその職を代行する。
 - (3) アドバイザーはLANの利用に関する指導を主な業務とする。
 - (4) センター員はセンター長の指示に従い、センターの業務を行う。
 - 3 センター長は、本校専任教員の中から校長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 4 主任は必要に応じ本校専任教員の中から校長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 5 アドバイザーは校長が任命し、その任期は別に定める。
 - 6 センター員は必要に応じ本校職員の中から校長が任命する。
- 第4条 情報処理センターの運営に関する基本事項を審議するため、小平工業高等専門学校情報処理センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。
- 2 運営委員会に関する事項は、別に定める。
- 第5条 情報処理センターの利用に関する必要な事項は別に定める。

(出典 情報処理センター規程)

資料2-1-③-2

情報処理センターの活用状況

	8:50~9:40	9:50~10:40	10:50~11:40
月	情報処理基礎A			情報応用工学
火				
水	情報処理応用		自由利用時間	
木			情報処理基礎B	
・				
・				

(出典 自己点検・評価書第〇号P. △)

2) 地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンターは、「小平工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程」第3条において、同センターの業務に「(3) 教育上の利用に関する事項」を定め、卒業研究・特別研究の実施、実験・実習の実施等を行うこととして位置付けられている(資料2-1-③-3)。また、資料2-1-③-4~6のとおり、卒業研究・特別研究、実験・実習において、活用している。

資料2-1-③-3

○小平工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程
平成14年5月30日全面改正

小平工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程(平成14年1月17日制定)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規程は、小平工業高等専門学校内部組織規定(平成9年1月23日制定)第8条第2項の規定に基づき、小平工業高等専門学校地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、小平工業高等専門学校(以下「本校」という。)と地域との連携を強化するため、本校における産学官の交流及び共同研究等の産学官連携・協力事業を推進するとともに、地域の公的機関等との連携の下に公開講座、学校開放、各種講演会講師派遣、イベント参加などの事業(以下「産学官連携・協力事業」という。)を積極的に企画・実施し、もって地域の産業振興及び地域住民の生涯学習の促進並びに本校の教育研究活動の活性化を図るものとする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1)産学官連携・協力に関する事項
 - ア 産学官連携・協力事業推進のための企画・運営
 - イ 共同研究、受託研究及び受託試験等の推進
 - ウ 技術開発の相談
 - エ 技術研修会、講演会等の普及啓発活動の企画・運営
 - オ 産学官連携・協力事業に関する広報活動
 - カ 学内における共同研究の推進
- (2)産学官連携・協力に関する事項
 - ア 産学官連携・協力事業推進のための企画・運営
 - イ 公開講座、学校開放等の企画、調整、実施
 - ウ 各種講演会等への講師派遣及びその調整
 - エ 産学官連携・協力事業に関する広報活動
- (3)教育上の利用に関する事項
 - ア 卒業研究・特別研究の実施
 - イ 実験・実習の実施
 - ウ ロボコンなどの活動上の利用に関すること
 - エ その他、教育上の利用に必要なこと
- (4) その他、センターの運営及び施設の管理に関し必要な業務

(組織)

第4条 前条の業務を遂行するため、センターに産学官連携部門及び民学官連携部門を置く。

2 センターに次の職員を置く。

- (1)センター長
- (2)副センター長 2人
- (3)センター員 若干人
- (4)その他必要な職員
(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を統括する。

- 2 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、それぞれ「産学官連携部門」又は「民学官連携部門」の責任者となる。

- 2 副センター長は、本校の教員の中から校長が任命する。
- 3 副センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 副センター長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
(センター員)

第7条 センター員は、副センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

- 2 センター員は、必要に応じ本校教職員の中から校長が任命する。
- 3 センター員の任期は1年とし、再任を妨げない。
(学科長会議の了承)

第8条 センターの業務のうち全校に関係する重要事項については、学科長会議に報告し、その了承を得るものとする。
(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、地域連携推進及びセンターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 地域共同テクノセンター規程)

資料2-1-③-4

地域共同テクノセンターを利用した実験科目における利用状況

(出典 平成×年度地域共同テクノセンター年報P. ○)

資料 2 - 1 - ③ - 5

【授業科目名】 工作実習 I (必修科目)

【対象学科名・学年】 機械工学科 2 年次

【担当教員】 ○○ ○○, □□ □□

【単位数】 4 単位

【授業の目的と概要】 主に、地域共同テクノセンターにおいて、レーザ加工機、三次元測定器等の機器の基本的な操作を修得する。

- ・
- ・
- ・

(出典 平成×年度シラバス P. ○)

資料 2 - 1 - ③ - 6

地域共同テクノセンターを利用した卒業研究，特別研究の一覧

(出典 平成×年度地域共同テクノセンター年報 P. ○)

(分析結果とその根拠理由)

本校の全学的なセンターは、本校の教育目標「3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。」を達成する上で、情報処理センターでは低学年においての情報処理基礎教育、及び、専門学科においての情報処理応用教育を実施し、また、地域共同テクノセンターでは、学生に対する全学的な実験・実習教育の場として、多数の実験科目等で利用しており、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている

基準3 教員及び教育支援者等

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①: 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校で教育する一般科目では、観点1-1-①で述べている具体的な教育目標等を達成するため、資料3-1-①-1に示す一般教育科の教員を配置しており、その数は専任教員19人、非常勤講師23人の合計42人である。担当科目ごとの人員配置は表に示すように、数学8人、英語8人、国語4人、物理化学7人、社会6人、体育5人、音楽美術3人となっている。

教員は、それぞれの専門分野に適合した、授業科目を担当している(資料3-1-①-2)。

実践的技術者の育成のため、専門科目の基礎知識を修得させる教育の充実を図るため、数学、英語、物理化学に重点をおいて教員を配置しているほか、「3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。」とする卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力を達成するために、外国人のネイティブスピーカーを専任教員の准教授及び講師として2人配置し、国際社会に通用する英会話能力の獲得を図るなど、本校の教育目標を効果的に達成し得る教員配置を行っている。

なお、高等専門学校設置基準の第6条第2項には、「高等専門学校には、教員(助手を除く)のうち、第16条に規定する一般科目を担当する専任者の数は、入学定員に係る学生を4の学級に編成する場合は、18人を下つてはならない」とあるところ、本校においては、一般科目担当の専任の教員19人全員が助教以上であり、設置基準を満たしている。

資料3-1-①-1

一般教育科教員の数

	数学	英語	国語	物理化学	社会	体育	音楽美術	合計
教授	3	2	1	2	1	1	0	10
准教授	2	2	1	0	1	1	0	7
講師	0	1	0	0	0	0	0	1
助教	0	0	0	1	0	0	0	1
助手	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	5	2	3	2	2	0	19
非常勤講師	3	3	2	4	4	3	3	23
合計	8	8	4	7	6	5	3	42

(出典 平成×年度小平工業高等専門学校概要P. ○)

(分析結果とその根拠理由)

資料3-1-①-2

一般教育科教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	小平 一郎	博士(理学)	数 学	数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 微分積分
教授	国分寺 三郎	修士(法学)	法哲学	倫理・社会
:	:	:	:	:
准教授	マイケル・コスナー		イギリス文学	総合英語, 英語スキルズ
:	:	:	:	:
講師	立川 健	工学修士	応用物理	物理Ⅰ, 物理Ⅱ, 応用物理
:	:	:	:	:
非常勤講師	国立 五郎	修士(国文学)	文学史	国語Ⅰ, 古典文学

(出典 学生課資料)

一般科目担当教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、教育課程の授業科目構成と比してバランスよく配置している。また、数学、英語、物理化学に重点的に教員を配置し、特に英語教員には2人の外国人ネイティブスピーカーを配置するなど、本校の教育目標に沿った教員配置を行っている。

以上のことから、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員を適切に配置している。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校専門学科では、観点1-1-①で述べている具体的な教育目標等を達成するため、資料3-1-②-1に示す専門科目担当の教員を配置しており、その数は専任教員43人（他に助手1人）、非常勤講師10人の合計54人である（資料3-1-②-2～5）。

教員は、それぞれの専門分野に適合した、授業科目を担当している。（資料3-1-②-2）。

準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力である「4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。」に対して、深い専門知識を教授するにふさわしい教員として、修士または博士の学位を取得した教員を中心に配置している。また、応用実践力の育成のため、企業経験のある教員を各学科に複数名配置している（資料3-1-②-6）。

なお、高等専門学校設置基準の第6条第3項には、「教員（助手を除く）のうち、工学に関する学科において第16条に規定する専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に4の学科を置くときは、29人を下つてはならない」とあるところ、本校においては、専門科目担当の専任教員43人が助教以上であり、設置基準を満たしている。また、高等専門学校設置基準の第8条には、「専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の2分の1を下つてはならない」とあり、4学科から構成される場合、この数は24人となるところ、本校では専門科目を担当する専任の教授、及び准教授は33人であり、設置基準を満たしている。

資料3-1-②-1

専門科目担当教員の数

	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建築学科	合計
教授	4	4	5	4	17
准教授	5	4	4	3	16
講師	1	2	1	3	7
助教	1	2	0	0	3
助手	1	0	0	0	1
計	12	12	10	10	44
非常勤講師	3	3	2	2	10
合計	15	15	12	12	54

(出典 平成×年度小平工業高等専門学校概要P. ○)

資料3-1-②-2

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（機械工学科）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	青森 喜一	博士（工学）	流体力学	流体力学，水力学	（株）小平工業12年勤務
教授	秋田 俊郎	博士（工学）	材料力学	工学入門，材料力学	
：	：	：	：	：	：
准教授	岩手 大三郎	博士（工学）	情報通信工学	電気電子回路	（株）杉並工業7年勤務
准教授	宮城 信二	博士（工学）	光応用計測	情報処理Ⅰ，計測工学	国分工業（有）8年勤務
：	：	：	：	：	：
講師	山形 健太	修士（工学）	破壊工学	設計製図，機械力学	（有）村山工業8年勤務
：	：	：	：	：	：

（出典 学生課資料）

資料3-1-②-3

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（電気工学科）

（出典 学生課資料）

資料3-1-②-4

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（物質工学科）

（出典 学生課資料）

資料3-1-②-5

専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（建築学科）

（出典 学生課資料）

資料3-1-②-6

各学科の学位取得者及び企業経験者の配置状況

学科名	学位取得者数		企業経験者数	全教員数
	修士	博士		
機械工学科	0	9	2	11
電気工学科	1	5	3	9
物質工学科	2	6	2	9
建築学科	0	8	3	10

（出典 学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専門科目担当教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、各教員の専門分野を考慮し、バランスよく配置している。また、本校の学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力を達成するために学位取得者、企業経験者を各学科に複数名配置するなど、教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員を適切に配置している。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校では、機械電気工学専攻、物質工学専攻及び建築学専攻の3専攻を設置している。専攻科の一般科目では、より深い一般基礎知識を教授するために、修士または博士の学位を取得している教員を中心に、それぞれの専門分野に適合した各授業科目に適切に配置している。また、専攻科の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力である「A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。」及び「C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。」を達成するために、ネイティブスピーカーの外国人教員を准教授及び講師として2人配置している(資料3-1-③-1)。

資料3-1-③-1

専攻科の一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	小平 一郎	博士(理学)	代数学	線形代数学
教授	国分寺 三郎	修士(法学)	法哲学	技術倫理, 特許と知的財産
:	:	:	:	:
准教授	マイケル・コスナー		イギリス文学	スピーチI, スピーチII
:	:	:	:	:
講師	立川 健	工学修士	応用物理	物理化学
:	:	:	:	:
非常勤講師	国立 五郎	修士(国文学)	文学史	コミュニケーション法

(出典 学生課資料)

専攻科の専門科目においても担当授業科目と教員の専門分野と適合させて適切に配置し、専攻科の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力である「B 人文科学, 社会科学, 自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に応用できる能力を身に付ける。」及び「D 開発型技術者として、工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性, 意欲を身に付ける。」を達成するために、企業経験のある教員を中心に、専攻科の専門科目担当教員を配置している(資料3-1-③-2~4)。

さらに、特別研究を指導するため、博士の学位と十分な研究実績を持つ教員を特別研究指導員として配置している(資料3-1-③-5)。

資料3-1-③-2

専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（機械電気工学専攻）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	青森 喜一	博士（工学）	流体力学	工業基礎計測，特別研究	（株）小平工業12年勤務
教授	秋田 俊郎	博士（工学）	材料力学	創造設計法，特別研究	
：					
准教授	岩手 大三郎	博士（工学）	情報通信工学	デジタル制御，特別研究	（株）杉並工業7年勤務
准教授	宮城 信二	博士（工学）	光応用計測	基礎工学演習，特別研究	国分工業（有）8年勤務
：					
助教	山形 健太	修士（工学）	破壊工学	弾塑性理論，創造演習	（有）村山工業8年勤務

（出典 学生課資料）

資料3-1-③-3

専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（物質工学専攻）

（出典 学生課資料）

資料3-1-③-4

専攻科の専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（建築学専攻）

（出典 学生課資料）

資料3-1-③-5

特別研究指導教員の学位取得状況及び研究実績一覧

氏名	所属専攻名	学位取得状況	主な研究実績
青森 喜一	機械電気工学専攻	博士（工学）	次世代エネルギーの導入と今後の展開
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

（出典 庶務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の専攻科課程では、一般科目、専門科目ともに、それぞれ学生の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力を達成するために、博士の学位取得者や企業経験のある教員を中心に配置しているほか、ネイティブスピーカーを専任教員の准教授及び講師として2人配置している。また、十分な教育研究実績を持つ教員を特別指導研究教員として配置しているなど、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員を適切に配置している。

省略

観点 3-2-①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動を評価する組織として、校長および4主事から構成される教育業績評価委員会が設置されている(資料3-2-①-1)

教員は、年度当初、業績評価のための業務申請書を提出し(資料3-2-①-2)、年度末には教育活動実績報告書を教育業績評価委員会へ提出している(資料3-2-①-3)。教育業績評価委員会はこれを受けて教員の教育活動業績の評価を行う。さらに、校長による授業参観、学科主任からのヒアリングも評価の一部として取り入れている(評価結果は現地閲覧資料)。

資料 3-2-①-1

小平工業高等専門学校教育業績委員会規則

(設置)

第1条 小平工業高等専門学校に、教員の教育研究活動等の状況及び社会貢献の業績等について点検及び評価を行うため、小平工業高等専門学校教育業績評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる教員を委員として組織し、校長をもって委員長とする。

- (1) 校長
- (2) 副校長(教務主事)
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 研究主事

・
・

(任務)

第4条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 点検及び評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること。
- (2) 点検及び評価の実施に関すること。
- (3) その他、教育業績評価に関すること。

・
・

(出典 教育業績評価委員会)

資料 3-2-①-2

業績評価のための業務申請表

学科 氏名

番号	分野	標準配点	配点の範囲	申請配点
1	教育	40	30～60	40
2	研究	20	10～40	20
3	学生生活指導	20	10～30	20
4	学内貢献	10	5～40	10
5	社会貢献	10	5～30	10
計		100	100	100

(出典 総務課保管資料)

資料 3-2-①-3

教育活動実績報告書

- 1 教育
 - 授業担当
 - 卒業研究指導
 - 特別研究指導
 - ・
 - ・
- 2 研究
 - 研究の取組
 - 学会，研究会，セミナー等への参画
 - 専門に関する論文，著書，報告書，講演等
 - ・
- 3 学生指導
 - 学級担任
 - 課外活動
 - ・
 - ・

(出典 総務課保管資料)

資料 3-2-①-4

教育業績評価結果とその対応(現地閲覧資料)

平成20年度には、平成19年度の教育業績評価結果を受けて、教員2名を専攻科課程担当に移動し、教員1名を地域協働テクノセンター担当とした(現地閲覧資料)。

(分析結果と根拠理由)

教員の教育活動を評価する委員会として、教育業績委員会が設置されている。教員の業績評価の業務申請表ならびに教育活動実績報告書をもとに、教育活動評価が行われている。また、評価結果の教員組織編制への活用を行っている。

以上のことから、教育活動に関する定期的な評価が行われ、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされている。

省略

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点到に係る状況）

本校では、準学士課程（編入学生を含む）及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーを明確に定めている（資料4-1-①-1, 2, 3, 4）。教職員には、各アドミッション・ポリシーを掲載している学生募集要項等の配付（資料4-1-①-5）、ウェブサイトへの掲載（資料4-1-①-6）、教員会、学科会議においての説明により周知（資料4-1-①-7, 8）している。アドミッション・ポリシーの教職員の周知状況については、年1回、アンケート調査（資料4-1-①-9）を実施しており、平成×年度に実施したアンケート調査結果では教職員の約9割が「知っている」と回答していることから、周知されている。

また、将来の学生を含めた社会には、広報室と学生募集室が連携して、学生募集要項の配布（資料4-1-①-5）、ウェブサイトへの掲載（資料4-1-①-5）、学校説明会の開催により理解されやすい形でわかりやすく公表している（資料4-1-①-10）。

資料4-1-①-1

準学士課程アドミッション・ポリシー

- 理数系の基礎学力が身に付いている人
- コミュニケーション能力の基礎が備わっている人
- 科学や技術に強い関心を持っている人
- 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人

(出典 平成×年度学生募集要項 抜粋)

資料4-1-①-2

専攻科課程アドミッション・ポリシー

- 自らの専門とする技術分野の基礎学力を備えている人
- これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味(好奇心)を持っている人
- コミュニケーション能力を身につけ、国際的にも活躍できる技術者を目指す人
- 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に開発・研究に取り組みたい人

(出典 平成×年度専攻科学生募集要項 抜粋)

資料4-1-①-3

学生募集要項

(出典 学生課資料)

資料4-1-①-4

小平工業高等専門学校入学者選抜規定

平成×年4月1日制定

(趣旨)

第1条 本校における入学者の選抜は、この規定の定めるところによる。

(入学者の選抜)

第2条 入学者の選抜は、能力・適性において高等専門学校の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を、公正に次の2つの方法で行う。

(1) 学力選抜

(2) 推薦選抜

(学力選抜:準学士課程)

第3条 学力選抜は、次により行う。

(1) 学力検査の成績と、中学校長又は中等教育学校長から提出された調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書の総合判定による。

(2) 学力検査は、国立高等専門学校が実施する統一問題の国語、社会、数学、理科及び英語の5教科とする。

(推薦選抜:準学士課程)

第4条 推薦選抜は、次の基準を満たす者について行う。

中学校又は中等教育学校における3年次の9教科学業成績5段階評定の上位15%以内に属する者

2 推薦選抜は、中学校長又は中等教育学校長から提出された推薦書、調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書をもとに面接を行い、面接と調査書等により選抜する。

3 選抜する者の数は、各学科10名程度とする。

・
・

(合格者の決定)

第6条 合格者の決定は、入学者選抜委員会に諮り、校長が行う。

(出典 入学者選抜規定 抜粋)

資料4-1-①-5

学生募集要項の配付(配布)状況

(出典 学生課資料)

資料4-1-①-6

ウェブサイトに掲載しているアドミッション・ポリシー

(出典 本校ウェブサイト)

資料4-1-①-7

教員会の議事要旨

平成×年度第○回教員会議事要旨

日 時:平成×年×月×日(○)○○:○○~○○:○○

場 所:管理棟大会議室

議 事

3. その他

- ・ 教務主事から教員にアドミッション・ポリシーをさらに把握・理解させるために説明があった。

(出典 平成×年×月×日 教員会議事録 抜粋)

資料4-1-①-8

学科会議の議事要旨

平成×年度第○回学科会議議事要旨

日 時:平成×年×月×日(○)○○:○○~○○:○○

場 所:○○学科中会議室

議 事

3. 報告事項

- ・ 学科長から教員にアドミッション・ポリシーをさらに把握・理解させるために説明があった。

(出典 平成×年×月×日 学科会議議事録 抜粋)

資料4-1-①-9

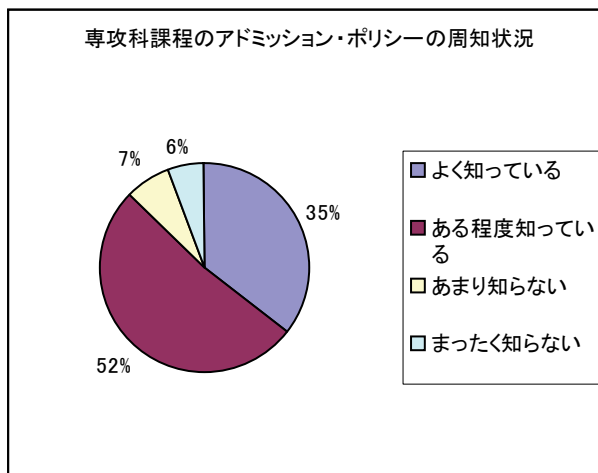
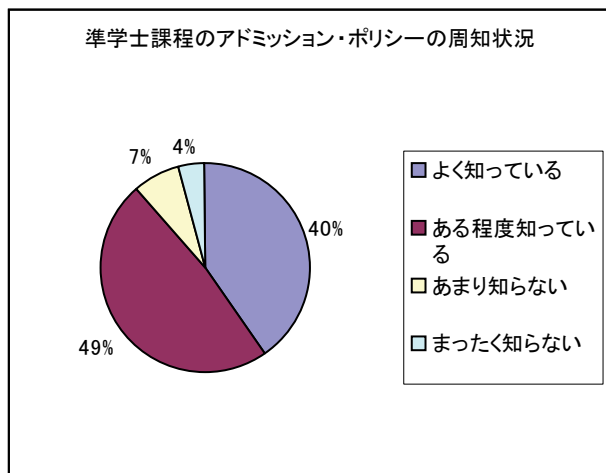
教職員のアドミッション・ポリシーの把握状況を確認したアンケート調査結果

1. 本校の準学士課程のアドミッション・ポリシーを知っていますか。 2. 本校の専攻科課程のアドミッション・ポリシーを知っていますか。

- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない

- (1) よく知っている
 (2) ある程度知っている
 (3) あまり知らない
 (4) まったく知らない

	準学士課程のアドミッション・ポリシー	専攻科課程のアドミッション・ポリシー
よく知っている	50人	44人
ある程度知っている	60人	64人
あまり知らない	9人	9人
まったく知らない	5人	7人



(出典 平成×年×月×日 学科会議議事録 抜粋)

資料4-1-①-10

平成×年度学校説明会

1. 日 時 平成×年×月×日(○) ○○:○○～○○:○○
2. 会 場 小平工業高等専門学校
3. プログラム
- 13:00 開会挨拶
小平工業高等専門学校校長 小平 一郎
- 13:10 説明会
小平高専について
小平工業高等専門学校教務主事 国立 太郎
アドミッション・ポリシーについて
小平工業高等専門学校教務主事 国立 太郎
- 14:30 校内施設等案内
・
・
・
4. 配布資料
1. ……………
 2. ……………
 3. 平成×年度学生募集要項
 4. ……………

(出典 平成×年×月×日 学校説明会プログラム)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、準学士課程（編入学生を含む）及び専攻科課程ともにアドミッション・ポリシーを明確に定め、ウェブサイトへの掲載、教員会や学科会議において学校の教職員に周知している。教職員に対しては、アドミッション・ポリシーの周知状況を把握するためにアンケート調査を実施しており、アンケート調査結果から実際に教職員に周知されている。また、学生募集要項等の配布、学校説明会等を通じて、将来の学生を含めた社会に理解されやすい形でわかりやすく公表している。

以上のことから、教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確に定め、学校の教職員に周知している。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形でわかりやすく公表している。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜では、準学士課程 1 年次への入学者選抜、準学士課程 4 年次への編入学生選抜及び専攻科課程の入学者選抜を学力選抜と推薦選抜で行っている。全ての入学者選抜は、入学者選抜規定（資料 4-2-①-1）に基づき、各学科と教務課が中心となって実施している。いずれの選抜方法においてもアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法を関連付けて、以下に示すように入学者選抜を実施している。

準学士課程 1 年次への入学者選抜

準学士課程 1 年次への入学者選抜は、入学者選抜規定に基づき、学力選抜と推薦選抜の 2 種類を実施している。

< 学力選抜 >

学力検査は、国語、社会、数学、理科及び英語の 5 教科で実施している（資料 4-2-①-2）。また、入学志望理由書（資料 4-2-①-3）を全ての入学を希望する者に提出させている。学力選抜では学力検査の成績と調査書の成績（内申点）を基に、入学者選抜規定に基づいて評価し、それらの結果を基に、入学志望理由書の評価とあわせ、入学者選抜委員会で全教員が受け入れる学生の候補者を選考し、校長が決定している（資料 4-2-①-1）。

アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるために、アドミッション・ポリシーの「理数系の基礎学力が身に付いている人」に対しては、数学及び理科の学力試験点を 1.5 倍、「コミュニケーション能力の基礎が備わっている人」に対しては、国語の学力試験点を 1.5 倍とする傾斜配点を行っている。さらに、「科学や技術に強い関心を持っている人」、「自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人」については、入学志望理由書で確認することにより考慮している（資料 4-2-①-4）。

実際の入学者選抜では、これらの結果を入学者選抜試験判定票（資料 4-2-①-5）に取りまとめているが、**実際の資料は、訪問調査時の確認資料**とする。

資料4-2-①-1

○小平工業高等専門学校入学者選抜規定

平成×年4月1日制定

(趣旨)

第1条 本校における入学者の選抜は、この規定の定めるところによる。

(入学者の選抜)

第2条 入学者の選抜は、能力・適性において高等専門学校の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を、公正に次の2つの方法で行う。

(1) 学力選抜

(2) 推薦選抜

(学力選抜:準学士課程)

第3条 学力選抜は、次により行う。

(1) 学力検査の成績と、中学校長又は中等教育学校長から提出された調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書の総合判定による。

(2) 学力検査は、国立高等専門学校が実施する統一問題の国語、社会、数学、理科及び英語の5教科とする。

(推薦選抜:準学士課程)

第4条 推薦選抜は、次の基準を満たす者について行う。

中学校又は中等教育学校における3年次の9教科学業成績5段階評定の上位15%以内に属する者

2 推薦選抜は、中学校長又は中等教育学校長から提出された推薦書、調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書をもとに面接を行い、面接と調査書等により選抜する。

3 選抜する者の数は、各学科10名程度とする。

.
.
.
.
.

(合格者の決定)

第6条 合格者の決定は、入学者選抜委員会に諮り、校長が行う。

(出典 入学者選抜規定 抜粋)

資料4-2-①-2

学力選抜の方法

V 学力選抜(学力検査による入学者の選抜)

4. 選抜の方法

学力検査, 中学校長又は中等教育学校長から提出された調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書により, 高等専門学校の教育を受けるにふさわしい資質を有する人を選抜します。

- (1) 学力検査は筆記試験とします。
- (2) 出題する教科は, 国語・社会・数学・理科及び英語の5教科です。
- (3) 検査日時 平成×年×月×日(○)

時間	9:30～10:20	10:40～11:30	11:50～12:40	13:30～14:20	14:40～15:30
教科	理 科	英 語	数 学	国 語	社 会

5. 学力検査の実施場所

小平工業高等専門学校

(出典 平成×年度入学者選抜要項 抜粋)

資料4-2-①-3

入学志望理由書

小平工業高等専門学校

平成 年 月 日

受験番号		氏名
志望学科	学科	

入学の志望理由として, 下記項目で該当するものに, ◎あるいは○を記して下さい。該当しない場合は空欄のままで結構です。また, その他の志望理由がある場合は, その他の欄に記してください。

◎・・・強い ○・・・普通 空欄・・・該当しない

- () 理数系の科目が好きだから
- () 科学や技術に強い関心を持っているから
- () 新しいものをつくり出す力を身に付け, 実行力のある技術者になりたいから

その他: _____

(注) 必ず本人自筆のこと。

(出典 平成×年度入学者選抜要項 抜粋)

<推薦選抜>

推薦選抜では、中学校長又は中等教育学校長から提出された推薦書、調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書を提出させ(資料4-2-①-1, 6), それらを基に面接を行いアドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している(資料4-2-①-7)。

面接は、推薦選抜時の面接指針に基づいて、評価を点数化して行い、その結果から学科別判定会議で合格候補者を決定し、入学者選抜委員会に諮り、校長が決定している。

実際の入学者選抜では、これらの結果を入学者選抜試験判定票(資料4-2-①-8)に取りまとめているが、**実際の資料は、訪問調査時の確認資料**とする。

資料4-2-①-6

推薦選抜の方法

1. 出願資格及び選抜方法

1) 出願資格

次の条件を全て満たし、中学校長又は中等教育学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人

- (1) 平成×年×月に中学校卒業見込みの人又は中等教育学校前期課程修了見込みの人
- (2) 本校入学の意志が特に強固で、志望の動機・理由が明確であり、志望学科に対して適性を有する人
- (3) 中学校又は中等教育学校における3年次の9教科学業成績5段階評定の上位15%以内に属する人

2) 選抜方法

中学校長又は中等教育学校長から提出された推薦書、調査書及び入学を希望する者の自筆の入学志望理由書をもとに面接を行い、面接と調査書により選抜します。

(出典 平成×年度学生募集要項 抜粋)

資料4-2-①-7

推薦選抜時の面接指針

3. 面接について

- ・ アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜する。
 - 理数系の基礎学力が身に付いている人
 - コミュニケーション能力の基礎が備わっている人
 - 科学や技術に強い関心を持っている人
 - 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人
- ・ 5つの評価項目それぞれについて、10段階の評価基準にしたがって、1点刻みで評価する。その得点の合計を評点(50点)とする。志願者の面接評点は3名の面接官の評点を平均したものとす。

質問事項	評価項目
①理数系の基礎学力が身に付いている人	調査書で確認する。
②コミュニケーション能力の基礎が備わっている人	○質問の意味を理解し、的確に回答しているか。 ○自分の考えや意見を進んで述べているか。
③科学や技術に強い関心を持っている人	○志望動機がはっきりしているか。 ○ものづくりに対する興味、関心はあるか。
④自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人	○自分で進んで学習し、技術の進展に対応することができるか。 ○苦勞、困難を乗り越える忍耐力はあるか。
⑤その他(全般的な印象)	○面接に臨む態度はどうか。 ○周囲と協力してうまくやっけていけるか。

(出典 平成×年度推薦入学者選抜実施要領 抜粋)

資料4-2-①-8

平成×年度入学者選抜試験判定票 (推薦)

機械工学科

合否	志望学科	受験番号	推薦書	調査書	入学志望理由書	面接	出身中学校等

(出典 入学者選抜試験判定票 (推薦) 様式)

準学士課程 4 年次への編入学生選抜

- ・
- ・
- ・
- ・

専攻科課程 1 年への入学者選抜

- ・
- ・
- ・
- ・

(分析結果とその根拠理由)

本校では、入学者選抜は、入学者選抜委員会で決定された入学者選抜規定に則って各学科及び教務課が中心となって適切に実施している。また、準学士課程、専攻科課程ともに、学力選抜及び推薦選抜により入学者を決定している。アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるために、学力選抜では、国語、数学、理科で傾斜配点を行い、入学志望理由書によりアドミッション・ポリシーに適合した学生であることを確認している。推薦選抜では、推薦書、調査書及び入学志望理由書に基づき、面接によりアドミッション・ポリシーに適合した学生であることを確認している。

以上のことから、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法を採用しており、実際の入学者選抜も適切に実施している。

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では、入学後の成績及び卒業率を分析することによって、学生の受入がアドミッション・ポリシーに沿って行われているかどうかを検証している。

平成〇×年度に実施した検証（資料4-2-②-1）では、「理数系の基礎学力が身に付いている人」については、学力選抜では、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入としてはやや不十分であるが、推薦選抜では、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が十分行われていると分析された。「コミュニケーション能力の基礎が備わっている人」については、両選抜方法ともアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入がおおむね行われていると分析された。「科学や技術に強い関心を持っている人」及び「自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人」については、学力選抜で入学した学生、推薦選抜で入学した学生とも、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われていると分析された。

上記の分析結果からアドミッション・ポリシーに沿った学生を更に多く受け入れるために、入学者選抜の学力選抜において理科、数学に重点をおいて確認する必要があると判断した。そのため、平成×〇年度から「理数系の基礎学力が身に付いている人」をより確実に受け入れるために、理科、数学で傾斜配点を行うように改善した。

検証では、推薦選抜で入学した学生は、学力選抜で入学した学生より、学力試験の平均点が上回っており、また卒業率も高い状況となっている（資料4-2-②-1）。この検証結果を踏まえて、また、強い志望動機を有する学生を増やすために、平成×〇年度には、推薦選抜の推薦枠を20%から25%に増加させた（資料4-2-②-2）。

資料 4 - 2 - ② - 1

準学士課程アドミッション・ポリシーに沿った学生が採用されているかの検討

入試においてアドミッション・ポリシーに沿って学生が選抜されているか否か、平成〇〇年度に学力選抜で入学した学生と推薦選抜で入学した学生の比較・分析を行う。

1. アドミッション・ポリシー

- 理数系の基礎学力が身に付いている人
- コミュニケーション能力の基礎が備わっている人
- 科学や技術に強い関心を持っている人
- 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人

2. 各事項の検討

アドミッション・ポリシーに関連する事項として下記の事項を検討する。

(1). 一般科目の成績

- 理数系の基礎学力が身に付いている人
 - ・理科，数学の3年次までの定期試験の学力試験点で分析
- コミュニケーション能力の基礎が備わっている人
 - ・国語の3年次までの定期試験の学力試験点で分析

(2). 専門科目の成績

- 科学や技術に強い関心を持っている人
- 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けた技術者になりたい人
 - ・実験・実習系の専門科目の5年次までの定期試験の学力試験点で分析

(3). 卒業率

3. 結果

表 1. 平成〇×年度3年次までの一般科目の状況

学科	科目	学生の平均点	学力選抜で入学した学生の平均点	推薦選抜で入学した学生の平均点
機械工学科	理科	76	69	83
	数学	76	68	84
	国語	81	74	87
電気工学科	理科	76	67	85
	数学	79	70	87
	国語	82	75	88
物質工学科	理科	74	66	82
	数学	77	71	83
	国語	83	77	89
建築学科	理科	77	71	82
	数学	77	68	86
	国語	79	74	84
全学科	理科	76	68	83
	数学	77	69	85
	国語	81	75	87

資料4-2-②-1続き

表2. 平成〇×年度5年次までの実験・実習系の専門科目の状況

学科	科目	学生の平均点	学力選抜で入学した 学生の平均点	推薦選抜で入学した 学生の平均点
機械工学科	機械工学実験	87	81	92
	機械工学実習	88	82	93
	創造実習	85	79	90
	：	：	：	：
	：	：	：	：
	平均	83	77	88
電気工学科	電気工学実験	84	76	91
	電気工学実習	84	75	93
	電気電子製図	85	78	92
	創造実習	85	77	93
	：	：	：	：
	：	：	：	：
	平均	88	83	93
物質工学科	物質工学実験	88	83	93
	物質工学実習	87	81	92
	創造実習	88	82	94
	：	：	：	：
	：	：	：	：
	平均	84	79	89
建築学科	建築学実験	87	82	92
	建築学設計	89	84	93
	創造実習	87	81	92
	：	：	：	：
	：	：	：	：
	平均	86	81	90
全学科		85	80	90

資料4-2-②-1 続き

表3. 準学士課程卒業率の推移

学科	年度	入学者数 (人数)		卒業者数 (人数)		卒業率 (%)	
		一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦
機械工学科	平成 14 年度	133	30	128	29	96	97
	平成 15 年度	129	32	125	31	97	97
	平成 16 年度	134	29	130	28	97	97
	平成 17 年度	132	31	129	30	98	97
	平成 18 年度	133	28	129	27	97	96
	平均	132	30	128	29	97	97
電気工学科	平成 14 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 15 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 16 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 17 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 18 年度	:	:	:	:	:	:
	平均	:	:	:	:	:	:
物質工学科	平成 14 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 15 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 16 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 17 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 18 年度	:	:	:	:	:	:
	平均	:	:	:	:	:	:
建築学科	平成 14 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 15 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 16 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 17 年度	:	:	:	:	:	:
	平成 18 年度	:	:	:	:	:	:
	平均	:	:	:	:	:	:
全学科	:	:	:	:	:	:	

(出典 平成×年×月×日 入学試験委員会資料 抜粋)

資料4-2-②-2

入学試験委員会の議事要旨

平成○×年度第○回入学試験委員会議事要旨

日 時:平成○×年×月×日(○)○○:○○~○○:○○

場 所:管理棟小会議室

議 事

2. 入学者選抜の改善について

- ・ 理科, 数学, 国語を傾斜配点することについて, 各学科で検討したところ, 全学科ともに問題ないとの判断であった。このことから, 平成×○年度の学力選抜から傾斜配点を導入することとした。
- ・ 推薦枠を 20%程度から 25%程度に引き上げることについて, 各学科で検討したところ, 全学科ともに問題ないとの判断であった。このことから, 平成×○年度の推薦入試から推薦枠を 25%に引き上げることとした。

(出典 平成○×年×月×日 入学試験委員会議事録 抜粋)

専攻科課程では、・・・・・・・・。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程では、入学試験委員会が受入学生の成績、卒業率を調査・分析し、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかについて検証を行っている。検証結果から改善が必要と判断された場合には、学校長に報告し、改善策を実施している。平成〇×年度の検証結果に基づいて、学力選抜では、アドミッション・ポリシーに沿った学生を更に受け入れるため、傾斜配点を採用し、また、推薦選抜では、推薦選抜で入学した学生のほうが、入学後の成績が比較的高い水準を維持しているため、推薦枠の引き上げを行い、入学者選抜方法の改善に役立てている。

専攻科課程では、・・・・・・・・。

省略

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点 5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

(観点到に係る状況)

本校の教育課程の編成について、各学科ともに、低学年時において一般科目を多く配置し、学年が進むにつれて専門科目の比重が高まるくさび形の科目配置となっている(資料 5-1-①-1～4)。

資料 5-1-①-1
機械工学科の授業科目一覧(一般・専門, 必修・選択等の別)
(出典 学生便覧 P. 〇)

資料 5-1-①-2
電気工学科の授業科目一覧(一般・専門, 必修・選択等の別)
(出典 学生便覧 P. 〇)

資料 5-1-①-3
物質工学科の授業科目一覧(一般・専門, 必修・選択等の別)
(出典 学生便覧 P. 〇)

資料 5-1-①-4
建築学科の授業科目一覧(一般・専門, 必修・選択等の別)
(出典 学生便覧 P. 〇)

教育課程については、各学科とも原則として、基礎となる一般科目(数理系科目等)を低学年に、専門基礎科目、専門科目を高学年に配置しており、卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らして体系的に編成している(資料 5-1-①-5～8)。授業科目の内容は、学科ごとに定めた教育目標を最終的な到達点として、それぞれ準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の各項目のいずれかに沿うものとなっている(別添資料「シラバス」参照)。

1年次に配置される科目は、新入生への導入科目として位置付け、前期は平易な内容から入り、授業の進行に伴い工学等の基礎知識を修得して工学の専門分野を学習する動機付けを促すものとなっている。

本校の目的(卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力)のうち、「1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。」に沿って、特別活動を 90 単位時間以上配置し、豊かな人間性の育成に資している。また、人文系・社会系の一般科目等においても、技術者として社会へ貢献する

意識と展望といった視点をその内容に組み込んでおり、個々の授業実施にあたって具体的な題材の選択等に反映させている。さらに、本校の教育目標「3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。」に沿って、・・・・・・・・・・。

本校の目的（卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力）のうち、「3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。」に沿って、英語教育に関しては、全ての学科で共通に、低学年時に基礎的な文法等を重視した講義を中心とした授業科目を配置し、高学年になるにつれてより専門性を高めた講義や会話力の育成を図る科目構成としている（資料5-1-①-5～8）。授業の内容は、目的に沿った英語教育全般の目標を具体的に定め、これらに対応する内容を設定している（資料5-1-①-9, 10）。

また、機械工学科では、学科の目的である「・・・・・・・・」に沿って、・・・・・・・・。

電気工学科では、・・・・・・・・。

資料5-1-①-5

機械工学科の教育課程の体系性と科目系統図

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択)
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	〇〇〇(必修) 〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択) 〇〇〇(必修)	〇〇〇(必修) 〇〇〇(選択)	〇〇〇(必修)
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

(出典 平成×年度シラバスP. 〇)

資料5-1-①-6

電気工学科の教育課程の体系性と科目系統図

(出典 平成×年度シラバスP. 〇)

資料5-1-①-7

物質工学科の教育課程の体系性と科目系統図

(出典 平成×年度シラバスP. ○)

資料5-1-①-8

建築学科の教育課程の体系性と科目系統図

(出典 平成×年度シラバスP. ○)

資料5-1-①-9

英語教育全般の具体的目標

(出典 平成×年×月×日 英語教育WG資料)

資料5-1-①-10

英語教育に関する授業科目のシラバスの具体的目標に対応している箇所の抜粋

(出典 平成×年度シラバスP. ○)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成については、各学科とも、くさび形の科目配置としており、本校の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らした卒業時の到達目標及び各学年の修了時の到達目標の下に、各授業科目を各学年に適切に配置している。また、目標に到達するために段階的な履修が可能となるよう授業科目の内容を決定している。

以上のことから、本校の準学士課程においては、教育の目的に照らして、授業科目を学年ごとに適切に配置し、教育課程を体系的に編成している。また、授業の内容は、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている。

省略

観点 5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

(観点に係る状況)

各学科では、専門的な知識から高いレベルの実践力までの修得を幅広くカバーするために、授業形態として講義、演習、実験・実習の科目を配置している。原則として、低学年では、基礎的な知識を中心に教育する講義科目を配置し、高学年では、より専門的な高いレベルの技術を教育する講義科目及び実践力等の育成を図る演習科目、実験・実習科目の比率を高めた構成としている(資料 5-2-①-1)。

資料 5-2-①-1

学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合

学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の各項目に対する専門科目授業形態の割合を示す表

学 科 名	学 年	合計単位数 割合	心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。				人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。				国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。				実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。			
			講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計
機械工学科	1年	合計単位数	20	8	12	40	20	8	12	40	20	8	12	40	20	8	12	40
		割合	50.0%	20.0%	30.0%	100.0%	50.0%	20.0%	30.0%	100.0%	60.0%	20.0%	20.0%	100.0%	40.0%	20.0%	40.0%	100.0%
	2年	合計単位数	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
		割合	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%
	3年	合計単位数	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
		割合	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%
	4年	合計単位数	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
		割合	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%
	5年	合計単位数	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
		割合	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%
電気工学科	合計単位数	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	
	割合	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	
物質工学科	合計単位数	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	
	割合	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	
建築学科	合計単位数	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	
	割合	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	：%	：%	：%	100.0%	

(出典 ○○○○)

また、卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力の各目的について、以下のような取組を行っている。

「1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。」という目的に沿って、物質工学科5年次の「生命倫理」では、現代社会において話題性の高い生命倫理に関する諸問題について、グループ形式で調査・レポートの作成を課すなどの工夫を凝らしている(資料 5-2-①-2, 3)。

資料 5-2-①-2

「生命倫理」のシラバスの抜粋

(出典 シラバス P. 〇)

資料 5-2-①-3

「生命倫理」におけるレポートの抜粋など、授業内容が確認できる資料

(出典 〇〇〇〇〇)

「3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。」という目的に沿って、英語教育に関して、低学年では基礎的な文法等を重視した講義科目を中心とし、高学年では読解力や会話力の育成を図る演習科目に比重を置いた構成としている。2年次において「総合英語」、「英語スキルズ」では、本校の英語教員と情報学系教員が共同で開発したパソコン用教材を利用しており（資料 5-2-①-4, 5）、4年次の「論文読解」では専門分野の最新の英語論文等を用いて専門科目との連携も図るとともに、グループ別に発表討論を行うなど（資料 5-2-①-6, 7）、**学習指導法の工夫**も行っている。

資料 5-2-①-4

「総合英語」、「英語スキルズ」のシラバスの抜粋

(出典 シラバス P. 〇)

資料 5-2-①-5

「総合英語」、「英語スキルズ」におけるパソコン用教材の概要

(出典 教材の使用マニュアル)

資料 5-2-①-6

「論文読解」のシラバスの抜粋

(出典 シラバス P. 〇)

資料 5-2-①-7

「論文読解」に用いた教材

(出典 「論文読解」第〇回教材)

「2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。」という目的に沿って、・・・・・・・・・・。

「4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。」という目的に沿って、・・・・・・・・・・。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らして、専門的な知識から高いレベルの実践力までの修得を幅広くカバーするために、講義、演習、実験・実習をバランスよく組み合わせている。また、それぞれの目的とする能力等を身に付けさせるために、グループ形式での討論、自主教材の活用など学習指導法や教材に工夫を行っている。

以上のことから、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

省略

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

(観点に係る状況)

本校では、目的に沿って、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を明確に定め（資料1-1-①-3（1ページに前出））、それぞれに対応させて授業科目を配置しており、その達成状況の把握方法については、教務委員会及び専攻科委員会において（資料6-1-①-1, 2）、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに達成要件（準学士課程の卒業要件及び専攻科課程の修了要件）を定めることにより明確にしている（資料6-1-①-3, 4）。これに基づき、準学士課程では教務委員会が、専攻科課程では専攻科委員会が、「卒業要件確認表」（資料6-1-①-5）及び「修了要件確認表」（資料6-1-①-6）を作成し、達成要件を満たしているか確認した上で、卒業（修了）認定会議において、卒業（修了）認定を行っている。

また、毎年度修了後、教務委員会及び専攻科委員会では、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況について、卒業（修了）要件確認表を整理・分析し、検証している（資料6-1-①-7, 8）。

資料6-1-①-1

教務委員会の組織体制及び規則

(出典 庶務課資料)

資料6-1-①-2

専攻科委員会の組織体制及び規則

(出典 庶務課資料)

資料 6-1-①-5

平成×年度準学士課程 卒業要件確認表

機械工学科 (5年)

氏名	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力					卒業要件 の判別	卒業認定
	1	2	3	4	・・・		
○○○○	○	○	○	○	・・・	○	○
△△△△	○	○	○	○	・・・	○	○
□□□□	○	○	○	○	・・・	○	○
××××	○	○	○	○	・・・	○	○
・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・			

電気工学科 (5年)

--

物質工学科 (5年)

--

建築学科 (5年)

--

(出典 平成×年×月×日 教務委員会資料)

資料 6-1-①-6

平成×年度専攻科課程 修了要件確認表

○○専攻 (2年)

氏名	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力					修了要件 の判別	修了認定
	A	B	C	D	・・・		
○○○○	○	○	○	○	・・・	○	○
××××	○	○	○	○	・・・	○	○
・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・			

△△専攻 (2年)

--

(出典 平成×年×月×日 専攻科委員会資料)

資料 6-1-①-7

学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況の検証内容が確認できる議事録の抜粋

(出典 平成×年×月×日教務委員会議事録 抜粋)

資料 6-1-①-8

学生が修了時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況の検証内容が確認できる議事録の抜粋

(出典 平成×年×月×日専攻科委員会議事録 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、目的に沿って定めた、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとにその達成要件（準学士課程の卒業要件及び専攻科課程の修了要件）を定めて、卒業（修了）認定会議においてそれぞれ卒業（修了）認定を実施しており、目的に沿った形で、課程に応じて、養成すべき人材像、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点到係る状況)

本校では、卒業（修了）要件確認表を基に、卒業（修了）認定を行うことで、本校の定める卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を備えた学生を育成している。また、教務委員会及び専攻科委員会における達成要件の検証結果では、達成要件に定める科目ごとの単位修得状況は、準学士課程平均 98%、専攻科課程平均 99%となっており、科目間の単位修得率のばらつきについてもほとんど認められない（資料 6-1-②-1, 2）。

省略

資料6-1-②-1

学士課程5年次における単位修得状況

機械工学科

卒業時に身に付けるべき 学力や資質・能力	科目名	平成X年度 単位修得率	前年度 単位修得状況
1	保健体育	100%	100%
	地理歴史	98%	97%

2	国語	96%	94%
	数学	99%	97%
	物理	100%	97%

...
平均値		98%	95%

電気工学科

--

物質工学科

--

建築学科

--

(出典 平成×年×月×日 教務委員会資料)

資料6-1-②-2

専攻科2年次における単位修得状況

専攻科 ○○専攻

卒業時に身に付けるべき 学力や資質・能力	科目名	平成X年度 単位修得率	前年度 単位修得状況
A	技術者倫理	99%	100%

B	法学	98%	97%
	哲学	99%	98%

...
平均値		99%	98%

専攻科 △△専攻

--

(出典 平成×年×月×日 専攻科委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとの達成要件を明確に定めており、達成要件に定める科目ごとの単位修得率が高率を維持している。また、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに配置された授業科目の単位修得状況から判断して、各学年や卒業（修了）時において学生が身に付ける学力や資質・能力について、教育の成果や効果が上がっている。

省略

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では、学生が行う学習達成度評価は学習等達成度記録簿（資料 6-1-④-1）で実施している。学生は、年度末に卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の各項目に対して、自己の学習達成度を 5 段階で評価し、学習等達成度記録簿に記入している。平成 18 年 6 月に、教育改善委員会が、平成 17 年度卒業（修了）生に対して行った 5 年次及び専攻科 2 年次の学習等達成度記録簿の分析を行っている。

準学士課程 5 年次に行った分析結果（資料 6-1-④-2）によると、各学科において、卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に対する各項目の評価はおおむね 3 点以上あるが、「3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける」に関する項目に対しては、3 点を下回る学科がある。

専攻科 2 年次に行った分析結果（資料 6-1-④-3）においても、各専攻において、修了時に身に付けるべき学力や資質・能力に対する各項目の評価はおおむね 3 点以上あるが、「C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける」に関する項目に対しては、3 点を下回る専攻がある。

学習等達成度記録簿

機械工学科

氏名 _____

○学習達成度の自己点検

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	5【達成した】→・・・→1【未達成である】				
	1年	2年	3年	4年	5年
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。					
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。					
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。					
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。					
・ ・ ・					

(出典 平成×年度「学習等達成度記録簿」抜粋)

学習等達成度記録簿の分析【平成 17 年度準学士課程卒業生】

①学習等達成度記録簿の分析【平成17年度機械工学科卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり，社会性及び倫理観を身に付ける。	3.15
2 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.84
3 国際性を身に付け，英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	3.02
4 実践的技術者として，工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.55
・ ・ ・	

②学習等達成度記録簿の分析【平成 17 年度電気工学科卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり，社会性及び倫理観を身に付ける。	3.22
2 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.56
3 国際性を身に付け，英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	2.89
4 実践的技術者として，工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.69
・ ・ ・	

(出典 平成×年×月×日 教育改善委員会資料)

③学習等達成度記録の分析【平成17年度物質工学科卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり，社会性及び倫理観を身に付ける。	3.05
2 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.89
3 国際性を身に付け，英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	3.14
4 実践的技術者として，工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.60
・ ・ ・	

④学習等達成度記録の分析【平成17年度建築学科卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり，社会性及び倫理観を身に付ける。	3.02
2 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.33
3 国際性を身に付け，英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	3.22
4 実践的技術者として，工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.89
・ ・ ・	

(出典 平成×年×月×日 教育改善委員会資料)

(出典 平成×年×月×日 教育改善委員会資料)

資料 6 - 1 - ④ - 3

学習等達成度記録簿の分析【平成 17 年度専攻科課程修了生】

①学習等達成度記録簿の分析【平成17年度〇〇専攻修了生】

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
A 技術者が担う社会的責任，科学技術における倫理的責任を理解するとともに，問題点を見出し，解決する能力を身に付ける。	3.33
B 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに，実践に応用できる能力を身に付ける。	3.65
C 豊かな国際感覚を持ち，英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。	2.88
D 開発型技術者として，工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性，意欲を身に付ける。	3.50
・ ・ ・	

②学習等達成度記録簿の分析【平成 17 年度△△専攻修了生】

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
A 技術者が担う社会的責任，科学技術における倫理的責任を理解するとともに，問題点を見出し，解決する能力を身に付ける。	3.11
B 人文科学，社会科学，自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに，実践に応用できる能力を身に付ける。	3.78
C 豊かな国際感覚を持ち，英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。	3.02
D 開発型技術者として，工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性，意欲を身に付ける。	3.44
・ ・ ・	

(出典 平成×年×月×日 教育改善委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生が行う学習達成度記録簿に記載された達成状況を確認した結果、準学士課程及び専攻科課程ともに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成度は、全体平均で3点以上の評価が得られていることから、学校の意図する教育の成果や効果が上がっている。

観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では、卒業（修了）から5年を経過した卒業（修了）生に対して、学校として明確にしている卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力がどの程度身に付いているかや、卒業（修了）後の成果について、アンケート調査を実施している。このほか、卒業（修了）生が就職または進学してから5年を経過した時点で、就職先及び進学先に、卒業（修了）生の勤務態度、研究態度などとともに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力がどの程度身に付いているかや、卒業（修了）後の成果についてのアンケート調査を実施している。

卒業（修了）生によるアンケート結果（資料6-1-⑤-1）及び進路先、就職先のアンケート結果（資料6-1-⑤-2）のどちらからも、準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力3及び専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力Cの「英語によるコミュニケーション能力」についてはやや低い評価となっているが、基礎学力に関する項目（準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力2、及び専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力B）についてはいずれも高い評価を得ている。また、卒業（修了）生は、それぞれの分野で優れた成果を発揮していることが示されている。

資料6-1-⑤-1

卒業（修了）生によるアンケート結果

- (3) 本校で設定している準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、在学時に、どの程度身に付いたかについて、5段階評価でお答えください。(5【十分身に付けた】→4【身に付けた】→3【どちらとも言えない】→2【あまり身に付かなかった】→1【まったく身に付かなかった】)

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	3.02
2 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.76
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	2.62
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.45
・	

- (4) 本校で設定している専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、在学時に、どの程度身に付いたかについて、5段階評価でお答えください。(5【十分身に付けた】→4【身に付けた】→3【どちらとも言えない】→2【あまり身に付かなかった】→1【まったく身に付かなかった】)

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
A 技術者が担う社会的責任、科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。	3.22
B 人文科学、社会科学、自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に応用できる能力を身に付ける。	3.67
C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。	2.85
D 開発型技術者として、工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性、意欲を身に付ける。	3.37
・	

- (5) 卒業（修了）後に発揮できていると考えている、本校での教育、学習の成果等を挙げて下さい。

- ・ 専門分野の基礎を十分理解したので、実際の問題へ応用ができる。
- ・ 技術者として必要な基礎学力や専門知識資質が身につき、活用できている。
- ・ 自分で考え学んだことが現場で生きている。
- ・

(出典 「平成×年度卒業（修了）生のアンケート結果報告書」抜粋)

資料 6-1-⑤-2

進路先, 就職先のアンケート結果

(3) 本校で設定している準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、本校の卒業生がどの程度身に付けていると評価するか5段階評価でお答えください。(5【十分身に付けている】→4【身に付けている】→3【どちらとも言えない】→2【あまり身に付けていない】→1【まったく身に付けていない】)

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
1 心身ともに健全であり、社会性及び倫理観を身に付ける。	3.33
2 人文科学, 社会科学, 自然科学及び工学等の分野における基礎学力を修得する。	3.68
3 国際性を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。	2.88
4 実践的技術者として、工学の専門知識と応用実践力及び創造性を身に付ける。	3.69
・	

(4) 本校で設定している専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち、本校の修了生がどの程度身に付けていると評価するか5段階評価でお答えください。(5【十分身に付けている】→4【身に付けている】→3【どちらとも言えない】→2【あまり身に付けていない】→1【まったく身に付けていない】)

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	平均値
A 技術者が担う社会的責任, 科学技術における倫理的責任を理解するとともに、問題点を見出し、解決する能力を身に付ける。	3.33
B 人文科学, 社会科学, 自然科学及び工学等の分野における基礎を幅広く修得するとともに、実践に応用できる能力を身に付ける。	3.91
C 豊かな国際感覚を持ち、英語による日常的な会話のできるコミュニケーション能力を身に付ける。	2.99
D 開発型技術者として、工学の深い専門知識と問題解決能力や創造性, 意欲を身に付ける。	3.45
・	

(5) 本校の卒業(修了)生が在学時に受けた教育の成果として考えられることを挙げて下さい。

- ・ チームワークを発揮して、現場重視の姿勢で活躍している。
- ・ 目標をしっかりと見据え、自分で調査、実践する能力が優れている。
- ・ 地道に研究を行い、その成果を国際学会で発表するなど活躍している。
- ・

(出典 「平成×年度進路先, 就職先のアンケート結果報告書」抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関して、卒業（修了）生及び進路先からアンケートにより意見を聴取する取組を実施しており、その結果から、本校として期待する教育の成果や効果がおおむね得られている。

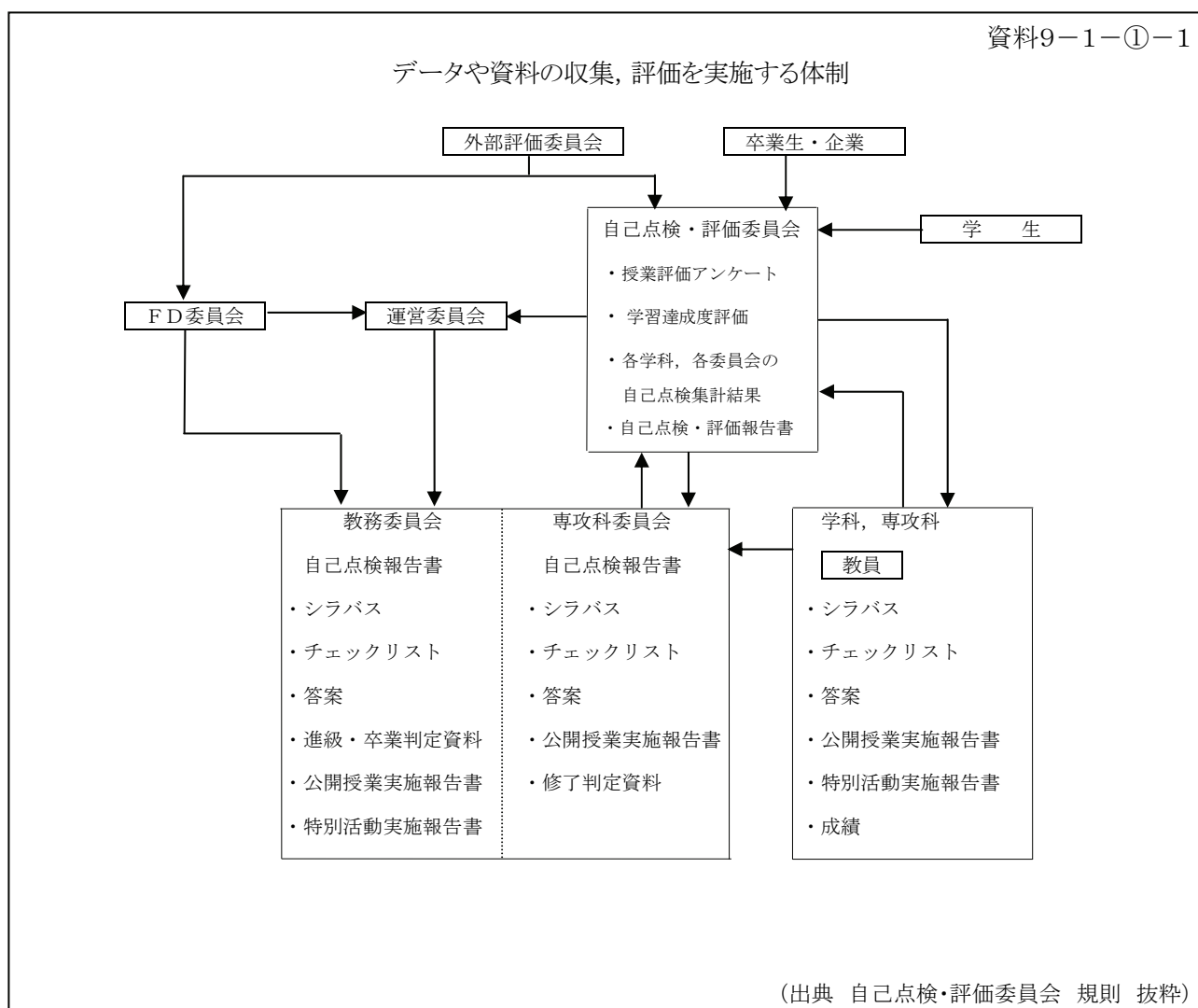
基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育活動に関するデータや資料は、各学科、専攻科から教務委員会、専攻科委員会及び自己点検・評価委員会に提出され、点検が行なわれ、担当課や担当室に蓄積されている。これらの資料を基に資料9-1-①-1に示される体制で評価が行われている。



教務委員会及び専攻科委員会では、各課程のシラバス、チェックリストのほか、学生の成績表、答案、進級・卒業（修了）判定の資料など、自己評価・点検委員会では、授業評価アンケート、学生による学習達成度評価、各学科で実施している自己点検・評価の資料などを収集・蓄積している（資料9-1-①-2）。これらの資料は、教務課、評価資料室などに保存している。

各学科、専攻科では、授業科目ごとに公開授業を行い、授業内容や教授方法を評価し、チェックリストにまとめている（観点9-1-⑤）。また、成績などを基に、進級・卒業判定などを行っている。教務委員会及び専攻科委員会では、それらを基に各学科、専攻科で教育活動が適切に行われているか点検し、自己点検報告書として取りまとめ、自己点検・評価委員会に報告するシステムと

なっている。自己点検・評価委員会では、それらの点検結果を評価するとともに、学生に対して授業評価アンケート、卒業（修了）生に対して学習達成度評価を実施し、その結果の点検・評価を行っている。これらの点検・評価結果は、自己点検・評価報告書に取りまとめ、運営委員会に提出しており、さらにこの自己点検・評価報告書は外部評価委員会で評価されるシステムとなっている。評価結果は、各委員会、学科、教員にフィードバックされる。

資料 9-1-①-2

表 教育活動に係るデータ、資料の管理

教育活動に関するデータ、資料	収集担当委員会	蓄積場所
学生成績表（準学士課程）	教務委員会	教務課
答案（準学士課程）	教務委員会	教務課
進級・卒業判定の資料（準学士課程）	教務委員会	教務課
シラバス	教務委員会	教務課
学生成績表（専攻科課程）	専攻科委員会	教務課
答案（準学士課程）	専攻科委員会	教務課
修了判定の資料（専攻科課程）	専攻科委員会	教務課
シラバス	教務委員会	教務課
授業評価アンケート	自己点検・評価委員会	評価資料室
学生による達成度評価（準学士課程）	自己点検・評価委員会	評価資料室
学生による達成度評価（専攻科課程）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（機械工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（電気工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（物質工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（建築学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（教務委員会）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（専攻科委員会）	自己点検・評価委員会	評価資料室

(出典 自己点検・評価委員会 資料 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動に関するデータや資料は、教務委員会、専攻科委員会及び自己点検・評価委員会が収集しており、評価資料室、教務課などに蓄積している。各学科、専攻科では、授業科目ごとに公開授業を行い、授業内容や教授方法を評価し、チェックリストにまとめている。

収集・蓄積した資料・データは、教務委員会、専攻科委員会及び自己点検・評価委員会の連携により点検・評価するシステムが確立されている。

以上のことから、教育活動の実態を示すデータや資料を適切に収集・蓄積しており、評価を適切に実施できる体制を整備している。

観点9-1-②： 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

(観点に係る状況)

自己点検・評価は、その実施要領(資料9-1-②-1)に基づき、自己点検・評価委員会により、教育の状況に関しては、教育理念・目標、準学士課程の教育活動、専攻科課程の教育活動、教育改善活動という大項目のもとに、原則として毎年実施されている。

教員の意見は、教員の自己評価報告書(学生による授業評価結果の分析も踏む)(資料9-1-②-2)によるほか、教員相互評価等で聴取している。また、公開授業により保護者の意見を聴取し、職員の意見は研修の際のアンケート等により聴取している(資料9-1-②-3)。学生から意見の聴取を行う取組としては、授業評価アンケートを実施している(資料9-1-②-4)。卒業生、修了生の意見は、定期的に行っている就職先企業及び進学先へのアンケート(資料9-1-②-5)により、また、外部有識者の意見は、外部評価により、聴取している(資料9-1-②-6)。

聴取した意見等をもとに、自己点検・評価委員会では、その実施要領に基づき、教育の状況に関する点検・評価を行い報告書としてまとめている(資料9-1-②-7)。

資料9-1-②-1

小平工業高等専門学校自己点検・評価委員会要領

平成3年4月1日

運営委員会委員長裁定

小平工業高等専門学校自己点検・評価委員会要領

(趣旨)

第1条 小平工業高等専門学校運営委員会規程第7条に基づき、小平工業高等専門学校(以下「本校」という。)における教育・研究活動の状況について、自ら点検及び評価を行い、本校の教育・研究水準の向上を図り、かつ、社会的使命を達成するために、自己点検評価委員会(「以下」委員会という。)を置く。

...

(点検評価の実施)

第8条 委員会は、原則として毎年、点検評価を行うものとする。

2 委員会は、点検及び評価の結果を運営委員会に報告するものとする。

3 運営委員会は、委員会からの報告に基づき、点検・評価の総括を行い、校長に報告するものとする。

...

(点検評価への対応)

第10条 校長は、委員会が行った点検・評価に基づき、改善を必要とすると認められる事項については、関係の実施組織に、その改善の検討を付託するものとする。

2 校長は、自己点検・評価の結果を社会に公表するものとする。

(出典 小平工業高等専門学校規程集)

資料 9-1-②-2

教員自己評価報告書

(出典 教員自己評価報告書)

資料 9-1-②-3

職員研修アンケート結果

(出典 職員研修アンケート)

資料 9-1-②-4

授業評価アンケート結果

(出典 授業評価アンケート)

資料 9-1-②-5

平成 20 年度
小平高専卒業生・修了生，企業・大学対象
アンケート

(出典 卒業生，修了生，企業対象アンケート)

資料 9-1-②-6

外部評価報告書

(出典 外部評価報告書)

自己点検・評価報告書

—小平高専の現状・課題と改善の方向について—

目次

まえがき

第1章 教育理念・目標

1・1 教育理念と本校の目的

1・2 教育目標

学生アンケートの結果も踏まえ、教育目標をわかりやすい表現とする見直しを図る。・・・

第2章 準学士課程の教育活動

2・1 学科の構成

2・2 学科及び一般科目の教育目標

2・3 教育課程の編成

外部評価委員会の提言を受けて「科目流れ図」に一般科目も含めて考える・・・

「創成科目」「インターンシップ」への教員の負担軽減を図る・・・

第3章 専攻科課程の教育活動

3・1 専攻科の構成

3・5 成績評価・単位認定

シラバスでは、科目ごとに自学・自習の時間についても明記し、・・・

第7章 教育改善活動

7・1 教育改善活動

保護者への公開授業を平成20年度も続ける・・・

授業公開・授業観察による教員相互の授業評価を実施し、教授法の・・・

優れた取組の教育方法を学内で共有できるようにするシステム作り・・・

7・3 教員顕彰制度

授業改善や担任指導の面で、優れた実績を上げた教員を・・・

あとがき

(出典 平成20年度小平工業高等専門学校自己点検・評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

様々な取組により、学校の構成員、学外関係者の意見を聴取しており、その結果をもとに自己点検・評価委員会が、学校の策定した基準に基づき、自己点検・評価を行い、自己点検・評価報告書を作成している。

以上のことから、学校の構成員、学外関係者の意見の聴取を行っており、教育の状況に関する自己点検・評価を適切に行っている。

省略